

2019年3月期3Q 決算説明会 Q&A

2019年2月6日

【FY18 3Q実績】

Q 制御の受注状況について、地域別・業種別など改めて確認したい

A 中国では、石油化学のお客様を中心に環境規制に伴う流量計・伝送器等の製品販売など、受注が継続して堅調である。インドでは、主にダウストリームで既設の更新やサービス・メンテ等が好調であり、中東についても、ダウストリームで大口の案件が入りつつある。北米は4Qに中型・大型含めて受注を目指して活動している。

Q 制御の大口・小口の比率など受注の中身について伺いたい

A 3Q だけでは中東で大口プロジェクトを受注するなど、どちらかと言えば大口が堅調であった。今年度の傾向はまず小口が伸びてきて、徐々に大口を受注している状況と認識しているが、ここ数年基本的に大口、小口の構成比に大きな変化はない。

Q 制御の収益性について、国内、海外の利益水準を含めて確認したい。

A 2Qまでのトレンドと大きな変化はない。3Qは特に海外制御での増収に加え、貸倒引当金の減少等もあり大幅に改善している認識。また、国内も昨年低採算のジョブが集中し、一時的に悪化した反動もあり、改善傾向である。

Q 営業利益分析（説明資料 P.5）について、戦略投資・コスト構造改革の進捗を中心に確認したい

A 戦略投資は将来の成長に向けて、吟味しながら投資をしており、今期30億円使うという意思に変更はない。コストダウンは戦略投資との相対という基本的な考え方に変わりはなく、実質販管費もやや増えているが、例えば粗利の改善として、調達と物流の効率化など両面で寄与する活動もあり、エンジニアリングの効率化なども順調に進捗していることを含め、年間目標を概ね達成できるとみている。

Q 原油価格や米中貿易摩擦などのリスク要因について、顧客の投資動向を含め確認したい

A 原油価格については、年末にかけて下落若干心配したが、足元では安定推移しており、お客様の投資マインドに大きな変化はない。中国は一般的に景況悪化が心配されているが、当社のビジネスに大きな変化を感じているわけではない。北米もレイバーコストの上昇など懸念が報じられているが、当社への影響はいまのところない。したがって、来期に市況が急激に悪化するという認識はないが、リスクがないという訳ではないので、引き続き状況を注視していく。

【FY18 業績予想について】

Q 業績予想が保守的ではないか？何か4Qで悪化を見込んでいるのか？

A 3Qの進捗は堅調だが、競争は引き続き厳しいなかで、やや固めにみている。何か悪化を見込んでいるわけではなく、営業利益360億円は自信を持って達成したいレベルの数字である。

Q 制御地域別受注見通しについて伺いたい

A 地域の進捗や新興国通貨など為替の影響に応じて見直した数字に大きな心配はしていない。制御全体の数字としては、ある程度の自信を持って達成できると考えている。

(注) 本資料で提供する情報のうち業績見通し及び事業計画等に関するものは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいています。従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。なお、内容につきましては、理解し易いように部分的に加筆・修正しています。